

福音 と いのち

(要約ノート)

ソ・ヒョンソプ：著

伊藤仁：訳

(著者紹介)

ソ・ヒョンソプ牧師は韓国外国語大学で経営学 (B.A.)、延世大学院で経営学 (MBA) を専攻した。1993 年に福音を伝えよとの召命を受けて (第 1 コリント 1:17)、ソウル神学大学院に入り牧会学 (M.Div.) を学んだ。2011 年にアメリカのフラー神学校で「みことばの黙想を通じた靈性訓練」という論文によって牧会学博士の学位 (D.Min.) を受けた。

現在、GL ミッション (福音といのち宣教会) の代表である。2009 年から「福音といのち」キャンプを開催して、韓国だけでなく、中国、アフリカ、中東など各国の現地牧会者に、いのちの福音を教えている。「福音といのち」「みことばの黙想とキリスト教靈性」に深い関心を持ち、福音といのちのミニストリーに集中している。新旧約聖書が証しする福音を通していのちを味わうというキリスト教の核心真理と、いのちの実際である神との交わり、みことばの黙想を伝えている。それによって初代教会の本質である永遠のいのちの共同体、すなわち三位一体の神とつながり一つとなる、三位一体的教会を建て上げることを願っている。

著書には、みことばの黙想の適用的次元を超えて、交わりの観点をあらわした「天に属するみことばの喜び」と、福音を通していのちの道に導く「福音といのち」(いずれも韓国語、イレ書院) がある。

第1部 神がいのちを与える

第1章 万物の上におられる神を信仰せよ

(ローマ9:5) キリストは万物の上にあり、とこしえにほむべき神です。アーメン。

その頂上には何もなかった

神とみことば、信仰と神学

1, 万物の中に閉じ込められた「神」

啓示から状況へ

感情的体験 VS みことばの確信

人間のための「キリスト教」

2, 万物の上におられる神を信仰せよ

3つの神観

- (1) 多神論
- (2) 一神論
- (3) 唯一神論

キリストの十字架、万物の上におられる神へ

第2章 天から来られた人の子が、天に属することばを証しする

(ヨハネ 3:34) 神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

1, 人の子が天から来られた

(ヨハネ 3:13) だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。

(ダニエル 7:13) 私がまた、夜の幻を見ていると、見よ、人の子のような方が天の雲とともに来られた。その方は『年を経た方』のもとに進み、その前に導かれた。この方に、主権と栄誉と国が与えられ、諸民族、諸国民、諸言語の者たちはみな、この方に仕えることになった。その主権は永遠の主権で、過ぎ去ることがなく、その国は滅びることがない。

(ヨハネ 3:31-34) 上から来られる方は、すべてのものの上におられる。地から出る者は地に属し、地のことを話す。天から来られる方は、すべてのものの上におられる。この方は見たこと、聞いたことを証しされるが、だれもその証しを受け入れない。その証しを受け入れた者は、神が真実であると認める印を押したのである。神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

人の子、万物の上の証人

2, 福音、上から来た証し

(イザヤ 40:8) 草はしおれ、花は散る。しかし、私たちの神のことばは永遠に立つ。

(イザヤ 2:2-3) 終わりの日に、主の家の山は山々の頂に堅く立ち、もろもろの丘より高くそびえ立つ。そこにすべての国々が流れて来る。多くの民族が来て言う。「さあ、主の山、ヤコブの神の家に上ろう。主はご自分の道を私たちに教えてください。私たちはその道筋を進もう。」それは、シオンからみおしえが、エルサレムから主のことばが出るからだ。

(ヘブル 1:1-2) 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。

みことばの3重的形態

- (1) 宣言されたみことば
- (2) 記録されたみことば
- (3) 啓示されたみことば

(Ⅰ ペテロ 1:23-25) あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく朽ちない種からであり、生きた、いつまでも残る、神のことばによるのです。「人はみな草のよう。その栄えはみな草の花のようだ。草はしおれ、花は散る。しかし、主のことばは永遠に立つ」とあるからです。これが、あなたがたに福音として宣べ伝えられたことばです。

福音のみことばで新生する

(イザヤ 40:9) シオンに良い知らせを伝える者よ、高い山に登れ。エルサレムに良い知らせを伝える者よ、力の限り声をあげよ。声をあげよ。恐れるな。ユダの町々に言え。「見よ、あなたがたの神を。」

(詩 96:5) まことにどの民の神々もみな偽りだ。しかし主は天をお造りになった。

3, いのちを与えるのは霊

(イザヤ 66:2) これらすべては、わたしの手が造った。それで、これらすべては存在するのだ。——主のことば——わたしが目を留める者、それは、貧しい者、霊の砕かれた者、わたしのことばにおののく者だ。

(マタイ 13:13-16) わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らが見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、悟ることもしないからです。こうしてイザヤの告げた預言が、彼らにおいて実現したのです。『あなたがたは聞くには聞くが、決して悟ることはない。見るには見るが、決して知ることはない。この民の心は鈍くなり、耳は遠くなり、目は閉じているからである。彼らとその目で見ること、耳で聞くことも、心で悟ることも、立ち返ることもないように。そして、わたしが癒やすこともないように。』しかし、あなたがたの目は見ているから幸いです。また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。

聖霊の靈感と聖霊の照明

(詩 119:18) 私の目を開いてください。私が目を留めるようにしてください。あなたのみおしえのうちにある奇しいことに。

(ヨハネ 6:63) いのちを与えるのは御霊です。肉は何の益ももたらしません。わたしがあなたがたに話してきたことばは、霊であり、またいのちです。

(Ⅱ コリント 4:3-6) それでもなお私たちの福音に覆いが掛かっているとしたら、それは、滅び行く人々に対して覆いが掛かっているということです。彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、主なるイ

イエス・キリストを宣べ伝えています。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるし
もべなのです。「闇の中から光が輝き出よ」と言われた神が、キリストの御顔にある神の栄
光を知る知識を輝かせるために、私たちの心を照らしてくださったのです。

第3章 深い飢え渴き、永遠を問う

(ヨハネ 4:13-14) イエスは答えられた。「この水を飲む人はみな、また渴きます。しかし、
わたしが与える水を飲む人は、いつまでも決して渴くことはありません。わたしが与える水
は、その人の内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。」

1, 永遠を慕う心

(テトス 1:2) それは、偽ることのない神が永遠の昔から約束してくださった、永遠のいの
ちの望みに基づくものです。

(伝 3:11) 神のなさることは、すべて時にかなって美しい。神はまた、人の心に永遠を与え
られた。しかし人は、神が行うみわざの始まりから終わりまでを見極めることができない。

神話：深い飢え渴きの解消

宗教：深い実在を求める

2, 宗教を超えていのちへ

(ヨハネ 6:27) なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなる、永遠
のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の
子に、神である父が証印を押されたのです。

贈り物か、贈り物を下さる方か

3, ヤコブの井戸と永遠のいのちへの水

第4章 必要を求める者にいのちを与える

(ヨハネ 6:27) なくなってしまう食べ物のためではなく、いつまでもなくなる、永遠のいのちに至る食べ物のために働きなさい。それは、人の子が与える食べ物です。この人の子に、神である父が証印を押されたのです。

1, キリスト教信仰の必要と価値

2, 必要を求める者にいのちを与える

(ヨハネ 6:26) イエスは彼らに答えられた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。あなたがたがわたしを捜しているのは、しるしを見たからではなく、パンを食べて満腹したからです。

3, 韓国教会、必要を超えていのちへ

天の祝福か、地の祝福か

本当のいやし主、キリスト

自己尊重と自己実現の信仰

キリスト教の価値はいのちを得ること

(ヨハネ 20:31) これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

(ヨハネ 17:3) 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

第2部 契約の大旅程

第5章 初めにことばは神と共におられた

(I ヨハネ 1:1-2) 初めからあったもの、私たちが聞いたもの、自分の目を見たもの、じつと見つめ、自分の手でさわったもの、すなわち、いのちのことばについて。このいのちが現れました。御父とともにあり、私たちに現れたこの永遠のいのちを、私たちは見たので証しして、あなたがたに伝えます。

1, ヨハネの証し、初めを啓示する

(ヨハネ 1:1) 初めにことばがあった。ことばは神とともにあった。ことばは神であった。

2, 初めに三位一体の神がおられた

(ヨハネ 1:14) ことばは人となって、私たちの間に住まわれた。

内在的三位一体と救済史的三位一体

(使 2:23-24) 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。しかし神は、イエスを死の苦しみから解き放って、よみがえらせました。この方が死につながれていることなど、あり得なかったからです。

(I テモテ 6:15-16) キリストの現れを、定められた時にもたらしてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、死ぬことがない唯一の方、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれ一人見たことがなく、見ることもできない方。この方に誉れと永遠の支配がありますように。アーメン。

父のふところにおられるひとり子

(ヨハネ 5:26) それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにして下さったからです。

(ヨハネ 1:4) この方にはいのちがあった。このいのちは人の光であった。

(ヨハネ 1:18) いまだかつて神を見た者はいない。父のふところにおられるひとり子の神が、神を説き明かされたのである。

(ヨハネ 14:28) 父はわたしよりも偉大な方だからです。

(ヨハネ 10:30) わたしと父とは一つです。

3, 父と御子、服従と愛によって存在した

(ヨハネ 14:31) それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。

(ヨハネ 15:10) わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

(ヨハネ 17:21-24) 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。わたしは彼らのうちにて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

御子を見た者は父を見た

(ヨハネ 14:9) わたしを見た人は、父を見たのです。

(ルカ 18:42-43) イエスは彼に言われた。「見えるようになれ。あなたの信仰があなたを救いました。」その人はただちに見えるようになり、神をあがめながらイエスについて行った。これを見て、民はみな神を賛美した。

(ヨハ 17:5) 父よ、今、あなたご自身が御前でわたしの栄光を現してください。世界が始まる前に一緒に持っていたあの栄光を。

(ピリピ 2:6-8) キリストは、神の御姿であられるのに、神としてのあり方を捨てられたいとは考えず、ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。人としての姿をもって現れ、自らを低くして、死にまで、それも十字架の死にまで従われました。

御子、父と喜びに満たされる

(マタイ 11:19) 人の子が来て食べたり飲んだりしていると、『見ろ、大食いの大酒飲み、取

税人や罪人の仲間だ』と言うのです。しかし、知恵が正しいことはその行いが証明します。

(箴 8:30-31) わたしは神の傍らで、これを組み立てる者であった。わたしは毎日喜び、いつも御前で楽しんでいました。主の地、この世界で楽しみ、人の子らを喜んだ。

(詩 84:2) 私のたましいは主の大庭を恋い慕って絶え入るばかりです。私の心も身も生ける神に喜びの歌を歌います。

(ヨハネ 15:11) わたしの喜びがあなたがたのうちにあり、あなたがたが喜びで満ちあふれるようになるために、わたしはこれらのことをあなたがたに話しました。

4, 初めの聖霊、息を出される

(ヨハネ 20:22) こう言ってから、彼らに息を吹きかけて言われた。「聖霊を受けなさい。

(ヨハネ 3:34) 神が遣わした方は、神のことばを語られる。神が御霊を限りなくお与えになるからである。

(ヨハネ 15:26) わたしが父のもとから遣わす助け主、すなわち、父から出る真理の御霊が来るとき、その方がわたしについて証ししてくださいます。

(ヨハネ 14:20) その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。

第6章 神のかたちに人を造られた

(Ⅱコリント 4:4) 彼らの場合は、この世の神が、信じない者たちの思いを暗くし、神のかたちであるキリストの栄光に関わる福音の光を、輝かせないようにしているのです。

(コロサイ 1:16) なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

人、契約的交わりの存在

(創 1:26-28) 神は仰せられた。「さあ、人をわれわれのかたちとして、われわれの似姿に造ろう。こうして彼らが、海の魚、空の鳥、家畜、地のすべてのもの、地の上を這うすべてのものを支配するようにしよう。」神は人をご自身のかたちとして創造された。神のかたちとして人を創造し、男と女に彼らを創造された。神は彼らを祝福された。神は彼らに仰せら

れた。「生めよ。増えよ。地に満ちよ。地を従えよ。海の魚、空の鳥、地の上を這うすべての生き物を支配せよ。」

1, イエス・キリストは神のかたちである

関係性のかたち：神の内にとどまる

(ヨハネ 17:24) 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

個別性のかたち：服従する御子のかたち

2, 創造の契約と戒め

(ローマ 5:19) すなわち、ちょうど一人の人の不従順によって多くの人が罪人とされたのと同様に、一人の従順によって多くの人が義人とされるのです。

「生まれたいのち」と「造られたいのち」

(ヨハネ 8:23) イエスは彼らに言われた。「あなたがたは下から来た者ですが、わたしは上から来た者です。あなたがたはこの世の者ですが、わたしはこの世の者ではありません。

(I コリント 15:45) こう書かれています。「最初の人アダムは生きるものとなった。」しかし、最後のアダムはいのちを与える御霊となりました。

(ローマ 5:14) アダムは来たるべき方のひな型です。

人間とは、永遠のいのちを得なければならない存在

第7章 神が「助ける者」(エゼル) となられる

(詩 121:1-2) 私は山に向かって目を上げる。私の助けはどこから来るのか。私の助けは主から来る。天地を造られたお方から。

1, 人をエデンの園に置かれる

(創 2:16-17) 神である主は人に命じられた。「あなたは園のどの木からでも思いのまま食べてよい。しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べる時、あなたは必ず死ぬ。」

2, エデンの墮落、創造契約が破られる

罪が戒めによって機会をとらえる

(ローマ 7:11) 罪は戒めによって機会をとらえ、私を欺き、戒めによって私を殺したのです。

(創 3:2-3) 女は蛇に言った。「私たちは園の木の実を食べてもよいのです。しかし、園の中央にある木の実については、『あなたがたは、それを食べてはならない。それに触れてもいけない。あなたがたが死ぬといけないからだ』と神は仰せられました。」

誘惑、神のようになれる

(ローマ 5:12) こういうわけで、ちょうど一人の人によって罪が世界に入り、罪によって死が入り、こうして、すべての人が罪を犯したので、死がすべての人に広がったのと同様に

3, 「エゼル」(助ける者)、人から神へ

(創 2:18) また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」

(創 2:20-23) 人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。人

は言った。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」

契約の神が「エゼル」となる

(詩 146:3-5) あなたがたは君主を頼みとしてはならない。救いのない人間の子を。霊が出て行くと人は自分の土に帰りその日のうちに彼の計画は滅び失せる。幸いなことよヤコブの神を助けとしその神、主に望みを置く人。

(ローマ 8:35-37) だれが、私たちをキリストの愛から引き離すのですか。苦難ですか、苦悩ですか、迫害ですか、飢えですか、裸ですか、危険ですか、剣ですか。こう書かれています。「あなたのために、私たちは休みなく殺され、屠られる羊と見なされています。」しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

第8章 神を離れた者が、いちじくの葉で隠す

(創 3:7) こうして、ふたりの目は開かれ、自分たちが裸であることを知った。そこで彼らは、いちじくの葉をつづり合わせて、自分たちのために腰の覆いを作った。

(創 2:17) しかし、善悪の知識の木からは、食べてはならない。その木から食べるとき、あなたは必ず死ぬ。

霊的な死、自意識が覚醒される

1, いちじくの葉で隠す

悲惨な存在となる「勇気」

3A (外見、成功、富)

(ルカ 16:15) イエスは彼らに言われた。「あなたがたは、人々の前で自分を正しいとするが、神はあなたがたの心をご存じです。人々の間で尊ばれるものは、神の前では忌み嫌われるものなのです。

2, 悲惨な存在をさらけ出す勇気で、神のふところにとどまれ

(ヨブ 27:5-6) 私は息絶えるまで、自分の誠実さをこの身から離さない。私は自分の義を堅く保って手放さない。私の良心は生涯私を責めはしない。

(ヨブ 40:8) あなたはわたしのさばきを無効にするつもりか。自分を義とするため、わたしを不義に定めるのか。

(ヨブ 42:5-6) 私はあなたのことを耳で聞いていました。しかし今、私の目があなたを見ました。それで、私は自分を蔑み、悔いています。ちりと灰の中で。

追跡者なる神、天の猟犬

(創 3:10) 彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」

3, 裸で釘打たれる

第9章 救い主として御子を予表される

(創 3:15) わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。

1, 創造前に神が与えることにした恵み

(Ⅰ テモテ 6:15-16) キリストの現れを、定められた時にもたらしてくださる、祝福に満ちた唯一の主権者、王の王、主の主、死ぬことがない唯一の方、近づくこともできない光の中に住まれ、人間がだれ一人見たことがなく、見ることもできない方。この方に誉れと永遠の支配がありますように。アーメン。

(ヨハネ 5:26) それは、父がご自分のうちにいのちを持っておられるように、子にも、自分のうちにいのちを持つようにして下さったからです。

(Ⅰ ヨハネ 5:11) その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。

御子の内にあるいのち、永遠のいのちを約束される

(Ⅰ ペテロ 1:20) キリストは、世界の基が据えられる前から知られていましたが、この終わりの時に、あなたがたのために現れてくださいました。

(Ⅱ テモテ 1:9-10) 神は私たちに救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。

永遠なる神の義

2, 「アイエカ」あなたはどこにいるのか?

(創 3:9-11) 神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」彼は言った。「私は、あなたの足音を園の中で聞いたので、自分が裸であることを恐れて、身を隠しています。」主は言われた。「あなたが裸であることを、だれがあなたに告げたのか。あなたは、食べてはならない、とわたしが命じた木から食べたのか。」

(創 3:14-16) 神である主は蛇に言われた。「おまえは、このようなことをしたので、どんな家畜よりも、どんな野の生き物よりもろわれる。おまえは腹這いで動き回り、一生、ち

りを食べることになる。わたしは敵意を、おまえと女の間、おまえの子孫と女の子孫の間に置く。彼はおまえの頭を打ち、おまえは彼のかかとを打つ。」女にはこう言われた。「わたしは、あなたの苦しみとうめきを大いに増す。あなたは苦しんで子を産む。また、あなたは夫を恋慕うが、彼はあなたを支配することになる。」

(創 3:21-22) 神である主は、アダムとその妻のために、皮の衣を作って彼らに着せられた。神である主はこう言われた。「見よ。人はわれわれのうちのひとりようになり、善悪を知るようになった。今、人がその手を伸ばして、いのちの木からも取って食べ、永遠に生きることがないようにしよう。」

3, 原始福音、女の子孫と皮の衣

(マタイ 1:22-23) このすべての出来事は、主が預言者を通して語られたことが成就するためであった。「見よ、処女が身ごもっている。そして男の子を産む。その名はインマヌエルと呼ばれる。」それは、訳すと「神が私たちとともにおられる」という意味である。

(ガラテヤ 4:4-5) しかし時が満ちて、神はご自分の御子を、女から生まれた者、律法の下にある者として遣わされました。それは、律法の下にある者を贖い出すためであり、私たちが子としての身分を受けるためでした。

(Iヨハネ 3:8) 罪を犯している者は、悪魔から出た者です。悪魔は初めから罪を犯しているからです。その悪魔のわざを打ち破るために、神の御子が現れました。

(コロサイ 2:15) そして、様々な支配と権威の武装を解除し、それらをキリストの凱旋の行列に捕虜として加えて、さらしものにされました。

(イザヤ 61:10) 私は主にあって大いに楽しみ、私のたましいも私の神にあって喜ぶ。主が私に救いの衣を着せ、正義の外套をまといせ、花婿のように栄冠をかぶらせ、花嫁のように宝玉で飾ってくださるからだ。

(ガラテヤ 3:27) キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。

(ローマ 6:4) 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

救いの内容、罪の赦しと永遠のいのち

(ヨハネ 17:3) 永遠のいのちとは、唯一のまことの神であるあなたと、あなたが遣わされたイエス・キリストを知ることです。

第10章 第1 救済史、原始歴史の救い

(I テモテ 2:4) 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます。

1, 神の救いの戦略、救済史

旧約の福音、預言者を通して証しされた神の御子

(I ペテロ 1:10-11) この救いについては、あなたがたに対する恵みを預言した預言者たちも、熱心に尋ね求め、細かく調べました。彼らは、自分たちのうちにおられるキリストの御霊が、キリストの苦難とそれに続く栄光を前もって証ししたときに、だれを、そしてどの時を指して言われたのかを調べたのです。

2, アベル、最初の預言者

人間と共存する人間「あなたの弟はどこにいるのか？」

アベル、今も信仰を証しする

神を離れた者、安息のない放浪者

アベルの代わりとなる種、セツ

3, エノク、さばきを伝えた預言者

4, ノア、義を伝えた預言者

バベル、崩された所が神の門である

さばきを通した救い

第11章 第2 救済史、アブラハムに福音を伝える

(創 12:3) 地のすべての部族は、あなたによって祝福される。

1, 第2 救済史、アブラハムを選ばれる

アブラハムに祝福を与える

(創 12:1-3) 主はアブラムに言われた。「あなたは、あなたの土地、あなたの親族、あなたの父の家を離れて、わたしが示す地へ行きなさい。そうすれば、わたしはあなたを大いなる国民とし、あなたを祝福し、あなたの名を大いなるものとする。あなたは祝福となりなさい。わたしは、あなたを祝福する者を祝福し、あなたを呪う者をのろう。地のすべての部族は、あなたによって祝福される。」

2, アブラハムを通した祝福、創造前に約束された永遠のいのち

子孫の約束、来られる救い主を予表する

(創 15:5-7) そして主は、彼を外に連れ出して言われた。「さあ、天を見上げなさい。星を数えられるなら数えなさい。」さらに言われた。「あなたの子孫は、このようになる。」アブラムは主を信じた。それで、それが彼の義と認められた。主は彼に言われた。「わたしは、この地をあなたの所有としてあなたに与えるために、カルデア人のウルからあなたを導き出した主である。」

地の約束、入エジプトと出エジプトのたいまつ契約

3, 天の故郷にあこがれる

永遠の契約、イエス・キリストを通して成就される

第12章 ヨセフを通してエジプトに入る

(創 45:8) ですから、私をここに遣わしたのは、あなたがたではなく、神なのです。

(詩 105:8-10) 主はご自分の契約をとこしえに覚えておられる。命じられたみことばを千代までも。それはアブラハムと結んだ契約イサクへの誓い。主はそれをヤコブへの定めとして立てられた。イスラエルへの永遠の契約として。

1, ヨセフの夢、エジプトに入ることを約束される

(創 46:1-4) イスラエルは、彼に属するものすべてと一緒に旅立った。そしてベエル・シェバに来たとき、父イサクの神にいけにえを献げた。神は、夜の幻の中でイスラエルに「ヤコブよ、ヤコブよ」と語りかけられた。彼は答えた。「はい、ここにおります。」すると神は仰せられた。「わたしは神、あなたの父の神である。エジプトに下ることを恐れるな。わたしはそこで、あなたを大いなる国民とする。このわたしが、あなたとともにエジプトに下り、また、このわたしが必ずあなたを再び連れ上る。そしてヨセフが、その手であなたの目を閉じてくれるだろう。」

2, ヨセフの歴史、神は全てを益とされる

(詩 105:16-19) こうして主は飢饉を地の上に招きパンの蓄えをことごとくなくされた。主は一人の人を彼らに先駆けて送られた。ヨセフが奴隷に売られたのだ。ヨセフの足は苦しみのかせをはめられその首は鉄のかせに入れられた。彼のことがそのとおりになるときまで主のことがばは彼を鍊った。

3, ヨセフの信仰、出エジプトを仰ぎ見るようにさせる

(創 50:24-25) ヨセフは兄弟たちに言った。「私は間もなく死にます。しかし、神は必ずあなたがたを顧みて、あなたがたをこの地から、アブラハム、イサク、ヤコブに誓われた地へ上らせてくださいます。」ヨセフはイスラエルの子らに誓わせて、「神は必ずあなたがたを顧みてくださいます。そのとき、あなたがたは私の遺骸をここから携え上ってください」と言った。

ヨセフの従順、イエス・キリストを予表する
世に遣わされるキリスト者

第13章 「ヤハウエ」としてご自身を啓示される

(出エジプト 3:14) わたしは『わたしはある』という者である。

エジプトにいるご自身の民と共におられる

エジプトの王宮からミデヤンの荒野へ

1, モーセの召命、神が共におられる

2, 神の自己啓示「ヤハウエ」

3, 真理を知ること、「わたしが『わたしはある』である」ことを知ること

(ヨハネ 8:28) そこで、イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、わたしが『わたしはある』であること、また、わたしが自分からは何もせず、父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していたことを、あなたがたは知るようになります。

キリストのひな型、拒絶された者を救い主として立てられる

第14章 モーセを通して出エジプトする

(出エジプト 12:13) わたしはその血を見て、あなたがたのところを過ぎ越す。わたしがエジプトの地を打つとき、滅ぼす者のわざわいは、あなたがたには起こらない。

1, モーセ、エジプトに向かう

モーセの杖が神の杖に

他の人を遣わしてください

一人で「その道」を行く

神を知らない者、神のことばに逆らう

2, 出エジプトの目的、契約の民とするため

かたくななファラオ、神の主権のゆえ

十の災難

3, 過越し、災難は通り越される

過越しの子羊、イエス・キリスト

出エジプトの約束が成就される

第15章 シナイ山契約と証しの幕屋

1, 出エジプトの救い、シナイ山契約、戒め

2, 契約の序論「出エジプトの救い、シナイ山契約、戒め（トラー）」

(出 19:4-6) 『あなたがたは、わたしがエジプトにしたこと、また、あなたがたを鷲の翼に乗せて、わたしのもとに連れて来たことを見た。今、もしあなたがたが確かにわたしの声に従い、わたしの契約を守るなら、あなたがたはあらゆる民族の中であって、わたしの宝となる。全世界はわたしのものであるから。あなたがたは、わたしにとって祭司の王国、聖なる国民となる。』これが、イスラエルの子らにあなたが語るべきことばである。」

3, 証しの幕屋、天の聖所の模型

第16章 契約的義を捨てた民に、懲らしめが臨む

(I サムエル 15:22) 聞き従うことは、いけにえにまさり、耳を傾けることは、雄羊の脂肪にまさる。

1, 荒野、みことばに不従順して契約が破られる

モアブ契約、不従順に対する強い警告

モーセ、カナンの地の予表である神の国に入る

シェケム契約、カナンの地での契約更新

2, 「契約公式」が「叫び求める公式」へ

審判者である主を捨てて、自分の目に良いと見える通りに

(士 21:25) そのころ、イスラエルには王がなく、それぞれが自分の目に良いと見えることを行っていた。

シロの聖所から去られる

神が立てた王、王は今主の言われることを聞きなさい

3, サウルを退けてダビデを立てられる

第17章 ナタン預言と新契約

(エレミヤ 31:33) わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。

1, ダビデの即位物語とナタン預言

(Ⅱサムエル 7:11-13) それは、わたしが、わが民イスラエルの上にさばきつかさを任命して以来のことである。こうして、わたしはあなたにすべての敵からの安息を与えたのである。主はあなたに告げる。主があなたのために一つの家を造る、と。あなたの日数が満ち、あなたが先祖とともに眠りにつくとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子をあなたの後に起こし、彼の王国を確立させる。彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしは彼の王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。

ダビデの種、キリスト

さばきを通して公義が成就される

2, ヤロブアムの類似信仰

新約時代の類似信仰

3, 古い契約から新契約へ

条件規定を無条件規定へ

新契約を約束される

(エレミヤ 31:31-34) 見よ、その時代が来る——主のことば——。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った——主のことば——。これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである——主のことば——。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ——主のことば——。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」

契約的律法主義

イエス・キリスト、死によって新契約を立てる

第3部 福音からいのちへ

第18章 救い、福音を通して永遠のいのちを得る

(Ⅱテモテ 1:10) キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。

1, 宗教史的救いとキリスト教の救い

キリスト教の救い「その真理」から

2, 救いの意味：罪の赦し、永遠のいのち、神の国

(ルカ 18:18) また、ある指導者がイエスに質問した。「良い先生。何をしたら、私は永遠のいのちを受け継ぐことができるでしょうか。」

(ルカ 18:24) イエスは彼が非常に悲しんだのを見て、こう言われた。「富を持つ者が神の国に入るのは、なんと難しいことでしょう。」

(ルカ 18:26) それを聞いた人々は言った。「それでは、だれが救われることができるでしょう。」

聖書の中心主題、福音を通して永遠のいのちを得る

(ヨハネ 5:39-40) あなたがたは、聖書の中に永遠のいのちがあると思って、聖書を調べています。その聖書は、わたしについて証ししているものです。それなのに、あなたがたは、いのちを得るためにわたしのもとに来ようとはしません。

(ヨハネ 3:13-15) だれも天に上った者はいません。しかし、天から下って来た者、人の子は別です。モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子も上げられなければなりません。それは、信じる者がみな、人の子にあつて永遠のいのちを持つためです。」

(ヨハネ 12:32-33) わたしが地上から上げられるとき、わたしはすべての人を自分のもとに引き寄せます。」これは、ご自分がどのような死に方で死ぬことになるかを示して、言われたのである。

(エペ 4:8-9) そのため、こう言われています。「彼はいと高き所に上ったとき、捕虜を連れて行き、人々に贈り物を与えられた。」「上った」ということは、彼が低い所、つまり地上に降られたということではなくて何でしょうか。

(ヨハネ 8:28) そこで、イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げたとき、そのとき、

わたしが『わたしはある』であること、また、わたしが自分からは何もせず、父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していたことを、あなたがたは知るようになります。

御子を信じること、御子と一つとなる

3, 福音の目的、いのち

(Ⅱテモテ 1:9-10) 神は私たちを救い、また、聖なる招きをもって召してくださいましたが、それは私たちの働きによるのではなく、ご自分の計画と恵みによるものでした。この恵みは、キリスト・イエスにおいて、私たちに永遠の昔に与えられ、今、私たちの救い主キリスト・イエスの現れによって明らかにされました。キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不滅を明らかに示されたのです。

(Ⅰテモテ 1:16) しかし、私はあわれみを受けました。それは、キリスト・イエスがこの上ない寛容をまず私に示し、私を、ご自分を信じて永遠のいのちを得ることになる人々の先例にするためでした。

(Ⅱテモテ 1:1) 神のみこころにより、またキリスト・イエスにあるいのちの約束にしたがって、キリスト・イエスの使徒となったパウロから、

福音、神との正しい関係を回復する

(ローマ 1:17) 福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

要約「イエス・キリストは福音であり、この福音を通して永遠のいのちを得る。永遠のいのちは神との交わりであり、神との正しい関係を結ぶ神の義をもたらす。」

永遠のいのちを知らない信仰、教会を迫害する

(ヨハネ 16:2-3) 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。実際、あなたがたを殺す者がみな、自分は神に奉仕していると思う時が来ます。彼らがそういうことを行うのは、父もわたしも知らないからです。

第19章 神の国の福音と十字架の福音

(I ペテロ 3:18) キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

1, 神の国の福音宣言

(マルコ 1:14-15) ヨハネが捕らえられた後、イエスはガリラヤに行き、神の福音を宣べ伝えて言われた。「時が満ち、神の国が近づいた。悔い改めて福音を信じなさい。」

(ルカ 4:43) しかしイエスは、彼らにこう言われた。「ほかの町々にも、神の国の福音を宣べ伝えなければなりません。わたしは、そのために遣わされたのですから。」

神の国、みことばとわざによって宣言される

(マタイ 12:28) しかし、わたしが神の御霊によって悪霊どもを追い出しているのなら、もう神の国はあなたがたのところに来ているのです。

メシアのわざの成就

(ルカ 7:22-23) イエスは彼らにこう答えられた。「あなたがたは行って、自分たちが見たり聞いたりしたことをヨハネに伝えなさい。目の見えない者たちが見、足の不自由な者たちが歩き、ツァラアトに冒された者たちがきよめられ、耳の聞こえない者たちが聞き、死人たちが生き返り、貧しい者たちに福音が伝えられています。だれでも、わたしにつまずかない者は幸いです。」

(ヨハネ 20:30-31) イエスは弟子たちの前で、ほかにも多くのしるしを行われたが、それらはこの書には書かれていない。これらのことが書かれたのは、イエスが神の子キリストであることを、あなたがたが信じるためであり、また信じて、イエスの名によっていのちを得るためである。

弟子たちに委ねられた神の国の福音

(マタイ 10:5-8) イエスはこの十二人を遣わす際、彼らにこう命じられた。「異邦人の道に行ってはいけません。また、サマリア人の町に入ってはいけません。むしろ、イスラエルの家の失われた羊たちのところに行きなさい。行って、『天の御国が近づいた』と宣べ伝えなさい。病人を癒やし、死人を生き返らせ、ツァラアトに冒された者をきよめ、悪霊どもを

追い出さない。あなたがたはただで受けたのですから、ただで与えなさい。

(ヘブル 2:3-4) こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証ししてくださいました。

祝いと相続、神の国を表す

(テトス 3:6-7) 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

安息日に行われたいやしと、神の国の到来

(創 2:1-3) こうして天と地とその万象が完成した。神は第七日に、なさっていたわざを完成し、第七日に、なさっていたすべてのわざをやめられた。神は第七日を祝福し、この日を聖なるものとされた。その日に神が、なさっていたすべての創造のわざをやめられたからである。

(ヨハネ 5:17) イエスは彼らに答えられた。「わたしの父は今に至るまで働いておられます。それでわたしも働いているのです。」

(マルコ 2:27-28) そして言われた。「安息日は人のために設けられたのです。人が安息日のために造られたのではありません。ですから、人の子は安息日にも主です。」

神の国「すでに」と「まだ」の間で

(ルカ 17:20-24) パリサイ人たちが、神の国はいつ来るのかと尋ねたとき、イエスは彼らに答えられた。「神の国は、目に見える形で来るものではありません。『見よ、ここだ』とか、『あそこだ』とか言えるようなものではありません。見なさい。神の国はあなたがたのただ中にあるのです。」イエスは弟子たちに言われた。「あなたがたが、人の子の日を一日でも見たいと願っても、見られない日が来ます。人々は『見よ、あそこだ』とか、『見よ、ここだ』とか言いますが、行ってはいけません。追いかけてもいけません。人の子の日、人の子は、稲妻がひらめいて天の端から天の端まで光ると、ちょうど同じようになります。」

2, 十字架と復活の福音、神の国を実現する

(ルカ 22:20) 食事の後、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による、新しい契約です。

(ローマ 6:4) 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

(I ペテロ 3:18) キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

3, 神の国の福音、練られた品性 (トキモス) を生み出す

(ローマ 4:25-5:4) 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。こうして、私たちは信仰によって義と認められたので、私たちの主イエス・キリストによって、神との平和を持っています。このキリストによって私たちは、信仰によって、今立っているこの恵みに導き入れられました。そして、神の栄光にあずかる望みを喜んでいます。それだけではなく、苦難さえも喜んでいます。それは、苦難が忍耐を生み出し、忍耐が練られた品性を生み出し、練られた品性が希望を生み出すと、私たちは知っているからです。

(I ペテロ 1:7) 試練で試されたあなたがたの信仰は、火で精錬されてもなお朽ちていく金よりも高価であり、イエス・キリストが現れるとき、称賛と栄光と誉れをもたらします。

第20章 福音の3つの形式

(ローマ 4:25) 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。

十字架の福音と永遠のいのち

1, 福音、送る形式

(ローマ 1:1-4) キリスト・イエスのしもべ、神の福音のために選び出され、使徒として召されたパウロから。——この福音は、神がご自分の預言者たちを通して、聖書にあらかじめ約束されたもので、御子に関するものです。御子は、肉によればダビデの子孫から生まれ、聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。

キリスト論的福音と救済論的福音

(ローマ 1:17) 福音には神の義が啓示されていて、信仰に始まり信仰に進ませるからです。「義人は信仰によって生きる」と書いてあるとおりです。

(コロサイ 1:22-23) 今は、神が御子の肉のからだにおいて、その死によって、あなたがたをご自分と和解させていただきました。あなたがたを聖なる者、傷のない者、責められるところのない者として御前に立たせるためです。ただし、あなたがたは信仰に土台を据え、堅く立ち、聞いている福音の望みから外れることなく、信仰にとどまらなければなりません。この福音は、天の下のすべての造られたものに宣べ伝えられており、私パウロはそれに仕える者となりました。

2, 福音、渡される形式

(ローマ 4:25) 主イエスは、私たちの背きの罪のゆえに死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられました。

イエスの引き渡し、私たちの罪のゆえ

(マタイ 26:2) 「あなたがたも知っているとおりに、二日たつと過越の祭りになります。そして、人の子は十字架につけられるために引き渡されます。」

(使 2:23) 神が定めた計画と神の予知によって引き渡されたこのイエスを、あなたがたは

律法を持たない人々の手によって十字架につけて殺したのです。

3, 福音、死の形式

(I コリント 15:3) 私があなたがたに最も大切なこととして伝えたのは、私も受けたことであって、次のことです。キリストは、聖書に書いてあるとおりに、私たちの罪のために死なれたこと、

(15:4) また、葬られたこと、また、聖書に書いてあるとおりに、三日目によみがえられたこと、

(15:5) また、ケファに現れ、それから十二弟子に現れたことです。

(15:11) とにかく、私にせよ、ほかの人たちにせよ、私たちはこのように宣べ伝えているのであり、あなたがたはこのように信じたのです。

伝承された福音と一つになる

(1) 十字架の福音

(2) 葬りの福音

(3) 復活の福音

(4) 現れの福音

(ローマ 6:4) 私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

第21章 十字架の血潮、罪の赦しを通して神に近づこう

(ヘブル 10:19) こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。

1, 十字架に現れた 3 方面の恵み

- (1) キリストが十字架で流された血潮は私たちの全ての罪を赦し、たましいをきよめる。
- (2) 十字架は古い人を釘付けにして罪のからだを障害者にさせ、その結果罪の力から解放させる。
- (3) 十字架は律法を守って義と認められようとする肉の「自己主張の意思」を釘付けにして、その結果聖霊を通して律法を守るようにさせる。

傷、罪、背き

罪の力、古い人、罪のからだ

(ローマ 6:6) 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。

2, 血潮、罪の赦しときよめを受ける

敬虔な者、罪を告白して赦しを受ける者

(詩 32:5-6) 私は自分の罪をあなたに知らせ自分の咎を隠しませんでした。私は言いました。「私の背きを主に告白しよう」と。するとあなたは私の罪のとがめを赦してくださいました。それゆえ敬虔な人はみな祈ります。あなたに向かってあなたがおられるうちに。大水は濁流となっても彼のところに届きません。

(I ヨハネ 1:9) もし私たちが自分の罪を告白するなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、私たちをすべての不義からきよめてくださいます。

きよいたましい、契約の民の豊かさを味わう

(ヤコブ 1:17) すべての良い贈り物、またすべての完全な賜物は、上からのものであり、光を造られた父から下って来るのです。

(I ペテロ 3:4) むしろ、柔和で穏やかな霊という朽ちることのないものを持つ、心の中の

隠れた人を飾りとしなさい。それこそ、神の御前で価値あるものです。

3, 罪の赦しを受けて天の聖所へ

(ヘブル 9:12) また、雄やぎと子牛の血によってではなく、ご自分の血によって、ただ一度だけ聖所に入り、永遠の贖いを成し遂げられました。

(ヘブル 10:19-20) こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスはご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。

第22章 古い人の死、罪のからだが障害者となる

(ローマ 6:6-7) 私たちは知っています。私たちの古い人がキリストとともに十字架につけられたのは、罪のからだが減ぼされて、私たちがもはや罪の奴隷でなくなるためです。死んだ者は、罪から解放されているのです。

キリストの十字架、罪の力を無力化する

1, 王の命令 (ケリュグマ)、罪のからだが障害者となる

(ローマ 6:11) 同じように、あなたがたもキリスト・イエスにあつて、自分は罪に対して死んだ者であり、神に対して生きている者だと、認めなさい。

肉の苦しみを受ける者、罪を断ち切る

(I ペテロ 4:1-4) キリストは肉において苦しみを受けられたのですから、あなたがたも同じ心構えで自分自身を武装しなさい。肉において苦しみを受けた人は、罪との関わりを断っているのです。それは、あなたがたが地上での残された時を、もはや人間の欲望にではなく、神のみこころに生きるようになるためです。あなたがたは異邦人たちがしたいと思っていることを行い、好色、欲望、泥酔、遊興、宴会騒ぎ、律法に反する偶像礼拝などにふけりましたが、それは過ぎ去った時で十分です。異邦人たちは、あなたがたと一緒に、度を越した同じ放蕩に走らないので不審に思い、中傷しますが、

罪を断ち切る者、世のあざけりを受ける

(I コリント 6:19-20) あなたがたは知らないのですか。あなたがたのからだは、あなたがたのうちにおられる、神から受けた聖霊の宮であり、あなたがたはもはや自分自身のものではありません。あなたがたは、代価を払って買い取られたのです。ですから、自分のからだをもって神の栄光を現しなさい。

2, 罪の力、今は死ぬからだを支配しようとする

(ローマ 6:12-14) ですから、あなたがたの死ぬべきからだを罪に支配させて、からだの欲望に従ってはいけません。また、あなたがたの手足を不義の道具として罪に献げてはいけません。むしろ、死者の中から生かされた者としてあなたがた自身を神に献げ、また、あなたがたの手足を義の道具として神に献げなさい。罪があなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下にではなく、恵みの下にあるのです。

3, 罪に対する障害者として永遠のいのちに入れ

(マルコ 9:43) もし、あなたの手があなたをつまずかせるなら、それを切り捨てなさい。両手がそろっていて、ゲヘナに、その消えない火の中に落ちるより、片手でいのちに入るほうがよいのです。

第23章 肉（自己主張の意思）が律法に対して死ぬ

（ローマ 7:11）罪は戒めによって機会をとらえ、私を欺き、戒めによって私を殺したのです。

1, 律法と肉の関係

（マタイ 19:16-17）すると見よ、一人の人がイエスに近づいて来て言った。「先生。永遠のいのちを得るためには、どんな良いことをすればよいのでしょうか。」イエスは彼に言われた。「なぜ、良いことについて、わたしに尋ねるのですか。良い方はおひとりです。いのちに入りたいと思うなら戒めを守りなさい。」

肉の実は死である

（ローマ 7:5）私たちが肉にあったときは、律法によって目覚めた罪の欲情が私たちのからだの中に働いて、死のために実を結びました。

（7:6）しかし今は、私たちは自分を縛っていた律法に死んだので、律法から解かれました。その結果、古い文字にはよらず、新しい御霊によって仕えています。

（7:7）それでは、どのように言うべきでしょうか。律法は罪なんでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、律法によらなければ、私は罪を知ることはなかったでしょう。実際、律法が「隣人のものを欲してはならない」と言わなければ、私は欲望を知らなかったでしょう。

（7:8）しかし、罪は戒めによって機会をとらえ、私のうちにあらゆる欲望を引き起こしました。律法がなければ、罪は死んだものです。

（7:9）私はかつて律法なしに生きていましたが、戒めが来たとき、罪は生き、

（7:10）私は死にました。それで、いのちに導くはずの戒めが、死に導くものであると分かりました。

（7:11）罪は戒めによって機会をとらえ、私を欺き、戒めによって私を殺したのです。

2, 魔性的なものとサタン的なもの

肉によって戒めを守る者、神の敵となる

肉の行いに属する者は、のろいの下にある

（ローマ 7:21-24）そういうわけで、善を行いたいと願っている、その私に悪が存在する

という原理を、私は見出します。私は、内なる人としては、神の律法を喜んでいますが、私のからだには異なる律法があって、それが私の心の律法に対して戦いを挑み、私を、からだにある罪の律法のうちにとりこにしていることが分かるのです。私は本当にみじめな人間です。だれがこの死のからだから、私を救い出してくれるのでしょうか。

死の実、罪の力を明らかにする

(ローマ 7:13) それでは、この良いものが、私に死をもたらしたのでしょうか。決してそんなことはありません。むしろ、罪がそれをもたらしたのです。罪は、この良いもので私に死をもたらすことによって、罪として明らかにされました。罪は戒めによって、限りなく罪深いものとなりました。

3, 律法によって律法に対して死ぬ

(ガラテヤ 2:19-20) しかし私は、神に生きるために、律法によって律法に死にました。私はキリストとともに十字架につけられました。もはや私が生きているのではなく、キリストが私のうちに生きておられるのです。今私が肉において生きているいのちは、私を愛し、私のためにご自分を与えてくださった、神の御子に対する信仰によるのです。

(ローマ 8:4) それは、肉に従わず御霊に従って歩む私たちのうちに、律法の要求が満たされるためなのです。

私がしたのではない。主がなされた！

(I コリント 15:10) ところが、神の恵みによって、私は今の私になりました。そして、私に対するこの神の恵みは無駄にはならず、私はほかのすべての使徒たちよりも多く働きました。働いたのは私ではなく、私とともにあった神の恵みなのですが。

聖霊に従って行い、律法の要求を成す

第24章 葬りの福音（墓のしるし）、宮を建てる

（ヨハネ 2:19）イエスは彼らに答えられた。「この神殿を壊してみなさい。わたしは、三日でそれをよみがえらせる。」

1, 死によって葬られる

（ローマ 6:4）私たちは、キリストの死にあずかるバプテスマによって、キリストとともに葬られたのです。それは、ちょうどキリストが御父の栄光によって死者の中からよみがえられたように、私たちも、新しいいのちに歩むためです。

（コロサイ 2:12）バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。

（マタイ 12:39）しかし、イエスは答えられた。「悪い、姦淫の時代はしるしを求めますが、しるしは与えられません。ただし預言者ヨナのしるしは別です。ヨナが三日三晩、大魚の腹の中にいたように、人の子も三日三晩、地の中にいるからです。」

主の葬りと一つになる

2, この宮を壊しなさい。3日によみがえらせよう！

（I コリント 3:16）あなたがたは、自分が神の宮であり、神の御霊が自分のうちに住んでおられることを知らないのですか。

さばきを通して建てられた宮

（I 歴代 22:1）そこで、ダビデは言った。「これこそ神である主の宮だ。」

墓の3日、捕らわれている霊に行って宣言する

（I ペテロ 3:18-19）キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。その霊においてキリストは、捕らわれている霊たちのところに行って宣言されました。

（I ペテロ 3:22）イエス・キリストは天に上り、神の右におられます。御使いたちも、もろもろの權威と権力も、この方に服従しているのです。

墓のさばき、義に基づいて再び建てられる

(詩 94:14-15) まことに主はご自分の民を見放さずご自分のゆずりの民をお見捨てになりません。こうしてさばきは再び義に戻り心の直ぐな人はみなこれに従います。

3, さばきの救い主、キリスト

(ルカ 19:41-42) エルサレムに近づいて、都をご覧になったイエスは、この都のために泣いて、言われた。「もし、平和に向かう道を、この日おまえも知っていたら——。しかし今、それはおまえの目から隠されている。

(詩 51:4) 私はあなたにただあなたの前に罪ある者です。私はあなたの目に悪であることを行いました。ですからあなたが宣告するときあなたは正しくさばくときあなたは清くあられます。

墓で、みことばを通してキリストと共にとどまる

(黙 16:7) 「しかり。主よ、全能者なる神よ。あなたのさばきは真実で正しいさばきです。」

他者が受けるさばきで、キリストの墓にとどまる

(エレミヤ 15:16-17) 私はあなたのみことばが見つかったとき、それを食べました。そうして、あなたのみことばは、私にとって楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ、私はあなたの名で呼ばれているからです。私は、戯れる者がたむろする場に座ったり、喜び躍ったりしたことはありません。私はあなたの御手によって、ひとり座っていました。あなたが私を憤りで満たされたからです。

(哀 3:26-28) 主の救いを静まって待ち望むのは良い。人が、若いときに、くびきを負うのは良い。それを負わされたなら、ひとり静まって座っていよ。

さばきを受け入れる者、罪を断ち切る

キリストのさばきの座の前で

(Ⅱテサロニケ 1:7-10) 苦しめられているあなたがたには、私たちとともに、報いとして安息を与えることです。このことは、主イエスが、燃える炎の中に、力ある御使いたちとともに天から現れるときに起こります。主は、神を知らない人々や、私たちの主イエスの福音

に従わない人々に罰を与えられます。そのような者たちは、永遠の滅びという刑罰を受け、主の御前から、そして、その御力の栄光から退けられることとなります。その日に主イエスは来て、ご自分の聖徒たちの間であがめられ、信じたすべての者たちの間で感嘆の的となります。そうです、あなたがたに対する私たちの証しを、あなたがたは信じたのです。

第25章 復活の福音、終末を現在に生きる

(I コリント 15:57) しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

1, 復活されたキリスト、主となられる

神の御子

(ローマ 1:4) 聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。

終末の救い主としてのキリスト

(使 2:33-36) ですから、神の右に上げられたイエスが、約束された聖霊を御父から受けて、今あなたがたが目にし、耳にしている聖霊を注いでくださったのです。ダビデが天に上ったのではありません。彼自身こう言っています。『主は、私の主に言われた。あなたは、わたしの右の座に着いていなさい。わたしがあなたの敵をあなたの足台とするまで。』ですから、イスラエルの全家は、このことをはっきりと知らなければなりません。神が今や主ともキリストともされたこのイエスを、あなたがたは十字架につけたのです。』

主、全ての名にまさる

(エペソ 1:19-21) また、神の大能の力の働きによって私たち信じる者に働く神のすぐれた力が、どれほど偉大なものであるかを、知ることができますように。この大能の力を神はキリストのうちに働かせて、キリストを死者の中からよみがえらせ、天上でご自分の右の座に着かせて、すべての支配、権威、権力、主権の上に、また、今の世だけでなく、次に来る世においても、となえられるすべての名の上に置かれました。

(エペソ 2:6) 神はまた、キリスト・イエスにあって、私たちをともによみがえらせ、ともに天上に座らせてくださいました。

(黙 1:6) また、ご自分の父である神のために、私たちを王国とし、祭司としてくださった方に、栄光と力が世々限りなくあるように。アーメン。

(I コリント 8:5-6) というのは、多くの神々や多くの主があるとされているように、たとえ、神々と呼ばれるものが天にも地にもあったとしても、私たちには、父なる唯一の神がおられるだけで、この神からすべてのものは発し、この神に私たちは至るからです。また、唯一の主なるイエス・キリストがおられるだけで、この主によってすべてのものは存在し、この主によって私たちも存在するからです。

2, マラナタ、礼拝で主を呼ぶ

(I コリント 16:22) 主よ、来てください。

(黙 22:20) アーメン。主イエスよ、来てください。

高く挙げられた主、万物を満たす

(エペソ 1:22) また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

(ピリピ 4:4-7) いつも主にあって喜びなさい。もう一度言います。喜びなさい。あなたがたの寛容な心が、すべての人に知られるようにしなさい。主は近いのです。何も思い煩わないうで、あらゆる場合に、感謝をもってささげる祈りと願いによって、あなたがたの願い事を神に知っていただきなさい。そうすれば、すべての理解を超えた神の平安が、あなたがたの心と思いをキリスト・イエスにあって守ってくれます。

死をとがめて死に打ち勝つ

(I コリント 15:20-22) しかし、今やキリストは、眠った者の初穂として死者の中からよみがえられました。死が一人の人を通して来たのですから、死者の復活も一人の人を通して来るのです。アダムにあってすべての人が死んでいるように、キリストにあってすべての人が生かされるのです。

(I コリント 15:51-53) 聞きなさい。私はあなたがたに奥義を告げましょう。私たちはみな眠るわけではありませんが、みな変えられます。終わりのラッパとともに、たちまち、一瞬のうちに変えられます。ラッパが鳴ると、死者は朽ちないものによみがえり、私たちは変えられるのです。この朽ちるべきものが、朽ちないものを必ず着ることになり、この死ぬべ

きものが、死なないものを必ず着ることになるからです。

(ピリピ 3:21) キリストは、万物をご自分に従わせることさえできる御力によって、私たちの卑しいからだを、ご自分の栄光に輝くからだと同じ姿に変えてくださいます。

3, 霊魂不滅説と死者の復活

(I コリント 15:32-34) もし私が人間の考えからエペソで獣と戦ったのなら、何の得があったでしょう。もし死者がよみがえらないのなら、「食べたり飲んだりしようではないか。どうせ、明日は死ぬのだから」ということになります。惑わされてはいけません。「悪い交際は良い習慣を損なう」のです。目を覚まして正しい生活を送り、罪を犯さないようにしなさい。神について無知な人たちがいます。私はあなたがたを恥じ入らせるために言っているのです。

4, 終末の勝利を現在に味わう

(I コリント 15:55-57) 「死よ、おまえの勝利はどこにあるのか。死よ、おまえのとげはどこにあるのか。」死のとげは罪であり、罪の力は律法です。しかし、神に感謝します。神は、私たちの主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださいました。

決して無駄にならない労苦、主のわざのために

(I コリント 15:58) ですから、私の愛する兄弟たち。堅く立って、動かされることなく、いつも主のわざに励みなさい。あなたがたは、自分たちの労苦が主にあって無駄でないことを知っているのですから。

(I コリント 16:10) テモテがそちらに行ったら、あなたがたのところで心配なく過ごせるようにしてあげてください。彼も私と同じように、主のみわざに励んでいるのです。

(ピリピ 3:13-14) 兄弟たち。私は、自分がすでに捕らえたなどと考えるはいません。ただ一つのこと、すなわち、うしろのものを忘れ、前のものに向かって身を伸ばし、キリスト・イエスにあって神が上に召してくださるといふ、その賞をいただくために、目標を目指して走っているのです。

(II テモテ 4:7-8) 私は勇敢に戦い抜き、走るべき道のりを走り終え、信仰を守り通しました。あとは、義の栄冠が私のために用意されているだけです。その日には、正しいさばき主である主が、それを私に授けてくださいます。私だけでなく、主の現れを慕い求めている人には、だれにでも授けてくださるのです。

第4部 いのちに生きる生活

第26章 上のものを求めよ

(コロサイ 3:1) こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。

1, 永遠のいのちの現在性、無神論を反駁する

(コロサイ 2:12) バプテスマにおいて、あなたがたはキリストとともに葬られ、また、キリストとともによみがえらされたのです。キリストを死者の中からよみがえらせた神の力を信じたからです。

「上のもの」を求める哲学思想

(コロサイ 2:8) あの空しいだましごとの哲学によって、だれかの捕らわれの身にならないように、注意しなさい。それは人間の言い伝えによるもの、この世のもろもろの霊によるものであり、キリストによるものではありません。

2, キリストの内に、神の満ち満ちたご性質が肉体に宿る

(コロサイ 2:9) キリストのうちにこそ、神の満ち満ちたご性質が形をとって宿っています。
(コロサイ 3:1-4) こういうわけで、あなたがたはキリストとともによみがえらされたのなら、上にあるものを求めなさい。そこでは、キリストが神の右の座に着いておられます。上にあるものを思いなさい。地にあるものを思ってはなりません。あなたがたはすでに死んでいて、あなたがたのいのちは、キリストとともに神のうちに隠されているのです。あなたがたのいのちであるキリストが現れると、そのときあなたがたも、キリストとともに栄光のうちに現れます。

御子の内にとどまり御父の内にとどまる

(ヨハネ 14:20) その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。

(テトス 3:6-7) 神はこの聖霊を、私たちの救い主イエス・キリストによって、私たちに豊かに注いでくださったのです。それは、私たちがキリストの恵みによって義と認められ、永

遠のいのちの望みを抱く相続人となるためでした。

(I ヨハネ 2:24-25) あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。これこそ、御子が私たちに約束してくださったもの、永遠のいのちです。

(I ヨハネ 1:3) 私たちが見たこと、聞いたことを、あなたがたにも伝えます。あなたがたも私たちと交わりを持つようになるためです。私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。

(民 6:24-26) 主があなたを祝福し、あなたを守られますように。主が御顔をあなたに照らし、あなたを恵まれますように。主が御顔をあなたに向け、あなたに平安を与えられますように。

(詩 67:1-2) どうか神が私たちをあわれみ祝福し御顔を私たちの上に照り輝かせてくださいますように。あなたの道が地の上で御救いがすべての国々の間で知られるために。

(ヨハネ 17:24) 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

(I ペテロ 3:18) キリストも一度、罪のために苦しみを受けられました。正しい方が正しくない者たちの身代わりになられたのです。それは、肉においては死に渡され、霊においては生かされて、あなたがたを神に導くためでした。

贖いの恵みによって神に近づこう

(ヘブル 10:19-22) こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスのご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。また私たちには、神の家を治める、この偉大な祭司がおられるのですから、心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

3. 完全さをもって神に近づこう

(ヘブル 7:18-19) 一方で、前の戒めは、弱く無益なために廃止され、——律法は何も全うしなかったのです——もう一方では、もっとすぐれた希望が導き入れられました。これによって私たちは神に近づくのです。

(ヨハネ 17:23) わたしは彼らのうちにおいて、あなたはわたしのうちにおられます。彼らが完全に一つになるためです。また、あなたがわたしを遣わされたことと、わたしを愛されたように彼らも愛されたことを、世が知るためです。

(ヘブル 5:12-6:2) あなたがたは、年数からすれば教師になっていなければならないにもかかわらず、神が告げたことばの初歩を、もう一度だれかに教えてもらう必要があります。あなたがたは固い食物ではなく、乳が必要になっています。乳を飲んでいる者はみな、義の教えに通じてはいません。幼子なのです。固い食物は、善と悪を見分ける感覚を経験によって訓練された大人のものです。ですから私たちは、キリストについての初歩の教えを後にして、成熟を目指して進もうではありませんか。死んだ行いからの回心、神に対する信仰、きよめの洗いについての教えと手を置く儀式、死者の復活と永遠のさばきなど、基礎的なことをもう一度やり直したりしないようにしましょう。

(ヘブル 3:13-14)「今日」と言われている間、日々互いに励まし合って、だれも罪に惑わされて頑なにならないようにしなさい。私たちはキリストにあずかる者となっているのです。もし最初の確信を終わりまでしっかり保ちさえすれば、です。

第27章 古い人を脱いで新しい人を着なさい

(エペソ 4:24) 真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人を着ることでした。

1, 天の実存で地上の生活を生きる

(ヨハネ 8:23) イエスは彼らに言われた。「あなたがたは下から来た者ですが、わたしは上から来た者です。あなたがたはこの世の者ですが、わたしはこの世の者ではありません。

人の子の上を御使いが上り下りする

(ヨハネ 1:50-51) イエスは答えられた。「あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、とわたしが言ったから信じるのですか。それよりも大きなことを、あなたは見ることになりま

す。」そして言われた。「まことに、まことに、あなたがたに言います。天が開けて、神の御使いたちが人の子の上を上り下りするのを、あなたがたは見るようになります。」

罪と汚れを除く

(イザヤ 3:8) これは、エルサレムがつまずき、ユダが倒れたからであり、彼らの舌と行いが主に背き、主の栄光の現れに逆らったからである。

(エペソ 4:26) 怒っても、罪を犯してはなりません。憤ったままで日が暮れるようであってははいけません。

2, 汚れ、古い人の服を脱げ

(民 19:22) 汚れた者が触れるものは、すべて汚れる。それに触れた者も夕方まで汚れる。」

汚れの覚醒と血潮の恵み

(ヘブル 9:13-14) 雄やぎと雄牛の血や、若い雌牛の灰を汚れた人々に振りかけると、それが聖なるものとする働きをして、からだをきよいものにするのなら、まして、キリストが傷のないご自分を、とこしえの御霊によって神にお献げになったその血は、どれだけ私たちの良心をきよめて死んだ行いから離れさせ、生ける神に仕える者にすることでしょうか。

(I ペテロ 1:18-19) ご存じのように、あなたがたが先祖伝来のむなしい生き方から贖い出されたのは、銀や金のような朽ちる物にはよらず、傷もなく汚れもない子羊のようなキリストの、尊い血によったのです。

3, 新しい人を着なさい

(エペソ 4:32) 互いに親切にし、優しい心で赦し合いなさい。神も、キリストにおいてあなたがたを赦してくださったのです。

(コロサイ 3:12-14) ですから、あなたがたは神に選ばれた者、聖なる者、愛されている者として、深い慈愛の心、親切、謙遜、柔和、寛容を着なさい。互いに忍耐し合い、だれかがほかの人に不満を抱いたとしても、互いに赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたもそうしなさい。そして、これらすべての上に、愛を着けなさい。愛は結びの帯として完全です。

(エペソ 5:8) あなたがたは以前は闇でしたが、今は、主にあつて光となりました。光の子どもとして歩みなさい。

(マタイ 5:16) このように、あなたがたの光を人々の前で輝かせなさい。人々があなたが

たの良い行いを見て、天におられるあなたがたの父をあがめるようになるためです。

(コロサイ 3:15-16) キリストの平和が、あなたがたの心を支配するようにしなさい。そのために、あなたがたも召されて一つのからだとなったのです。また、感謝の心を持つ人になりなさい。キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。

新しい関係方式、服従と愛の存在法に従え

(コロサイ 3:18) 妻たちよ。主にある者にふさわしく、夫に従いなさい。

(3:19) 夫たちよ、妻を愛しなさい。妻に対して辛く当たってはいけません。

(3:20) 子どもたちよ、すべてのことについて両親に従いなさい。それは主に喜ばれることなのです。

(3:21) 父たちよ、子どもたちを苛立たせてはいけません。その子たちが意欲を失わないようにするためです。

(3:22) 奴隷たちよ、すべてのことについて地上の主人に従いなさい。人のご機嫌取りのよ
うな、うわべだけの仕え方ではなく、主を恐れつつ、真心から従いなさい。

(3:23) 何をするにも、人に対してではなく、主に対してするように、心から行いなさい。

(3:24) あなたがたは、主から報いとして御国を受け継ぐことを知っています。あなたがたは主キリストに仕えているのです。

(4:1) 主人たちよ。あなたがたは、自分たちも天に主人を持つ者だと知っているのですから、奴隷に対して正義と公平を示しなさい。

第28章 三位一体的な異種愛で、互いに愛せよ

(I ヨハネ 4:11) 愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

1, 三位一体の神の内にとどまる生活

(I ヨハネ 5:11) その証しとは、神が私たちに永遠のいのちを与えてくださったということ、そして、そのいのちが御子のうちにあるということです。

(I ヨハネ 2:24-25) あなたがたは、初めから聞いていることを自分のうちにとどまらせなさい。もし初めから聞いていることがとどまっているなら、あなたがたも御子と御父のうちにとどまります。これこそ、御子が私たちに約束してくださったもの、永遠のいのちです。

(ヨハネ 17:24) 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

(ヨハネ 16:2-3) 人々はあなたがたを会堂から追放するでしょう。実際、あなたがたを殺す者がみな、自分は神に奉仕していると思う時が来ます。彼らがそういうことを行うのは、父もわたしも知らないからです。

2, 三位一体の論証

三位一体の本質、相互内住と相互浸透

(ヨハネ 17:21-22) 父よ。あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるように、すべての人を一つにしてください。彼らもわたしたちのうちにいるようにしてください。あなたがわたしを遣わされたことを、世が信じるようになるためです。またわたしは、あなたが下さった栄光を彼らに与えました。わたしたちが一つであるように、彼らも一つになるためです。

(ヨハネ 14:20) その日には、わたしが父のうちに、あなたがたがわたしのうちに、そしてわたしがあなたがたのうちにいることが、あなたがたに分かります。

3, 神の異種愛と人間の同種愛

(ヨハネ 14:31) それは、わたしが父を愛していて、父が命じられたとおりに行っていることを、世が知るためです。

(I ヨハネ 4:9-11) 神はそのひとり子を世に遣わし、その方によって私たちにいのちを得

させていただきました。それによって神の愛が私たちに示されたのです。私たちが神を愛したのではなく、神が私たちを愛し、私たちの罪のために、宥めのささげ物としての御子を遣わされました。ここに愛があるのです。愛する者たち。神がこれほどまでに私たちを愛してくださったのなら、私たちもまた、互いに愛し合うべきです。

神の異種愛によって互いに愛せよ

(Iヨハネ 4:12) いまだかつて神を見た者はいません。私たちが互いに愛し合うなら、神は私たちのうちにとどまり、神の愛が私たちのうちに全うされるのです。

(ヘブル 2:11) 聖とする方も、聖とされる者たちも、みな一人の方から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず、こう言われます。

異種愛で、永遠のいのちの証人となる

(Iヨハネ 4:7) 愛する者たち。私たちは互いに愛し合ひましょう。愛は神から出ているのです。愛がある者はみな神から生まれ、神を知っています。

(Iヨハネ 3:14-15) 私たちは、自分が死からいのちに移ったことを知っています。兄弟を愛しているからです。愛さない者は死のうちにとどまっています。兄弟を憎む者はみな、人殺しです。あなたがたが知っているように、だれでも人を殺す者に、永遠のいのちがとどまることはありません。

(マタイ 25:40) すると、王は彼らに答えます。『まことに、あなたがたに言います。あなたがたが、これらのわたしの兄弟たち、それも最も小さい者たちの一人にしたことは、わたしにしたのです。』

第29章 見よ、万物を新しくする

(ローマ 8:37) しかし、これらすべてにおいても、私たちが愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。

1, 万物の中での永遠のいのちの生活

嘆く被造物、神の子どもたちを待つ

(コロサイ 1:16) なぜなら、天と地にあるすべてのものは、見えるものも見えないものも、王座であれ主権であれ、支配であれ権威であれ、御子にあって造られたからです。万物は御子によって造られ、御子のために造られました。

(ローマ 8:19-21) 被造物は切実な思いで、神の子どもたちが現れるのを待ち望んでいます。被造物が虚無に服したのは、自分の意志からではなく、服従させた方によるものなので、彼らには望みがあるのです。被造物自体も、滅びの束縛から解放され、神の子どもたちの栄光の自由にあずかります。

所有の管理者となり

(ルカ 16:9) わたしはあなたがたに言います。不正の富で、自分のために友をつくりなさい。そうすれば、富がなくなったとき、彼らがあなたがたを永遠の住まいに迎えてくれます。

自然の中で神の神性を見る

2, 全ての状況で神との一体を求める

(マタイ 27:46) 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

3, 非存在の脅威、圧倒的に勝利する

(ルカ 23:46) イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

圧倒的に勝利する

(ローマ 8:37-39) しかし、これらすべてにおいても、私たちを愛してくださった方によって、私たちは圧倒的な勝利者です。私はこう確信しています。死も、いのちも、御使いたちも、支配者たちも、今あるものも、後に来るものも、力あるものも、高いところにあるものも、深いところにあるものも、そのほかのどんな被造物も、私たちの主キリスト・イエスにある神の愛から、私たちを引き離すことはできません。

(詩 63:1-5) 神よあなたは私の神。私はあなたを切に求めます。水のない衰え果てた乾いた地で私のたましいはあなたに渴き私の身もあなたをあえぎ求めます。私はあなたの力と栄光を見るためにこうして聖所であなたを仰ぎ見えています。あなたの恵みはいのちにもまさるゆえ私の唇はあなたを賛美します。それゆえ私は生きるかぎりあなたをほめたたえあなたの御名により両手を上げて祈ります。脂肪と髓をふるまわれたかのように私のたましいは満ち足りています。喜びにあふれた唇で私の口はあなたを賛美します。

永遠のいのちの生活、終末に完成される

第30章 みことばの黙想、適用を超えて交わりへ導く

(I ヨハネ 1:3) 私たちの交わりとは、御父また御子イエス・キリストとの交わりです。

1, 契約の内にとどまる特権であり義務である

(ヨハネ 14:23) イエスは彼に答えられた。「だれでもわたしを愛する人は、わたしのことばを守ります。そうすれば、わたしの父はその人を愛し、わたしたちはその人のところに来て、その人とともに住みます。

(ヨハネ 15:10) わたしがわたしの父の戒めを守って、父の愛にとどまっているのと同じように、あなたがたもわたしの戒めを守るなら、わたしの愛にとどまっているのです。

(詩 143:8) 朝にあなたの恵みを聞かせてください。私はあなたに信頼していますから。行くべき道を知らせてください。私のたましいはあなたを仰いでいますから。

2, 永遠を現在に生きる

御父と御子の内にある喜びにあずかる

3, 十字架を通して神の栄光を見る

(ヨハ 17:24) 父よ。わたしに下さったものについてお願いします。わたしがいるところに、彼らもわたしとともにいるようにしてください。わたしの栄光を、彼らが見るためです。世界の基が据えられる前からわたしを愛されたゆえに、あなたがわたしに下さった栄光を。

適用を超えて交わりへ

第31章 終末、全ての民を弟子とせよ

(マタイ 28:20) 見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。

1, 救いの秩序、創造前から終末まで

(創造前) → (創造) → (墮落) → (救い) → (完全) → (終末)

「すでに」と「まだ」の間で

2, 主イエス・キリストの統治とサタンの統治

3, 全ての民を弟子とせよ

(マタイ 28:18-20) イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子とせよ。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るように教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

(Ⅱコリント 4:5) 私たちは自分自身を宣べ伝えているのではなく、主なるイエス・キリストを宣べ伝えています。私たち自身は、イエスのためにあなたがたに仕えるしもべなのです。

永遠のいのちに至る実のために

(ヨハネ 6:40) わたしの父のみこころは、子を見て信じる者がみな永遠のいのちを持ち、わたしがその人を終わりの日によみがえらせることなのです。

第32章 確信（パレシア）を捨てるな

（ヘブル 10:35）ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。

ヘブル書、ユダヤ教からキリスト教に改宗した者のため

1, イエス・キリストの偉大さ

御使いにまさる

（ヘブル 2:7-10）あなたは、人を御使いよりもわずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、万物を彼の足の下に置かれました。」神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。多くの子たちを栄光に導くために、彼らの救いの創始者を多くの苦しみを通して完全な者とされたのは、万物の存在の目的であり、また原因でもある神に、ふさわしいことであったのです。

モーセとアロンにまさる

信仰と現実の矛盾の間で

2, ヘブル書の核心価値「パレシア」（確信）

「パレシア」御子によって神に近づく力

（ヘブル 7:25）したがってイエスは、いつも生きていて、彼らのためにとりなしをしておられるので、ご自分によって神に近づく人々を完全に救うことがおできになります。

「パレシア」を持つ者、御子が仕える神の家である

（ヘブル 3:5-6）モーセは、後に語られることを証しするために、神の家全体の中에서도忠実でした。しかしキリストは、御子として神の家を治めることに忠実でした。そ

して、私たちが神の家です。もし確信と、希望による誇りを持ち続けさえすれば、そうなのです。

(エペソ 2:20-22) 使徒たちや預言者たちという土台の上に建てられていて、キリスト・イエスご自身がその要の石です。このキリストにあって、建物の全体が組み合わされて成長し、主にある聖なる宮となります。あなたがたも、このキリストにあって、ともに築き上げられ、御霊によって神の御住まいとなるのです。

(Iペテロ 2:5) あなたがた自身も生ける石として霊の家に築き上げられ、神に喜ばれる霊のいけにえをイエス・キリストを通して献げる、聖なる祭司となります。

「パレシア」みことばで罪を悟り、あわれみによって恵みの御座に近づく

(ヘブル 4:12-16) 神のことばは生きていて、力があり、両刃の剣よりも鋭く、たましいと霊、関節と骨髄を分けるまでに刺し貫き、心の思いやはかりごとを見分けることができます。神の御前にあらわでない被造物はありません。神の目にはすべてが裸であり、さらけ出されています。この神に対して、私たちは申し開きをするのです。さて、私たちには、もろもろの天を通られた、神の子イエスという偉大な大祭司がおられるのですから、信仰の告白を堅く保とうではありませんか。私たちの大祭司は、私たちの弱さに同情できない方ではありません。罪は犯しませんでしたが、すべての点において、私たちと同じように試みにあわれたのです。ですから私たちは、あわれみを受け、また恵みをいただいて、折にかなった助けを受けるために、大胆に恵みの御座に近づこうではありませんか。

「パレシア」血潮によって天の聖所に入る

(ヘブル 10:19-22) こういうわけで、兄弟たち。私たちはイエスの血によって大胆に聖所に入ることができます。イエスのご自分の肉体という垂れ幕を通して、私たちのために、この新しい生ける道を開いてくださいました。また私たちには、神の家を治める、この偉大な大祭司がおられるのですから、心に血が振りかけられて、邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われ、全き信仰をもって真心から神に近づこうではありませんか。

3, 最悪の状況で「パレシア」を捨てるな

(ヘブル 10:35-39) ですから、あなたがたの確信を投げ捨ててはいけません。その確信には大きな報いがあります。あなたがたが神のみこころを行って、約束のものを手に入れるために必要なのは、忍耐です。「もうしばらくすれば、来たるべき方が来られる。遅れることはない。わたしの義人は信仰によって生きる。もし恐れ退くなら、わたしの心は彼を喜ばない。」しかし私たちは、恐れ退いて滅びる者ではなく、信じていのちを保つ者です。

キリストの「パレシア」、捨てられた所から神に近づく

(マタイ 27:46) 三時ごろ、イエスは大声で叫ばれた。「エリ、エリ、レマ、サバクタニ。」これは、「わが神、わが神、どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味である。

(ルカ 23:46) イエスは大声で叫ばれた。「父よ、わたしの霊をあなたの御手にゆだねます。」こう言って、息を引き取られた。

第33章 聖霊に満たされて御心を成す教会

(エペソ 5:18) また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。

1, 救われた後、どう生きるか

(エペソ 5:15-21) ですから、自分がどのように歩んでいるか、あなたがたは細かく注意を払いなさい。知恵のない者としてではなく、知恵のある者として、機会を十分に活かさない。悪い時代だからです。ですから、愚かにならないで、主のみこころが何であるかを悟りなさい。また、ぶどう酒に酔ってはいけません。そこには放蕩があるからです。むしろ、御霊に満たされなさい。詩と賛美と霊の歌をもって互いに語り合い、主に向かって心から賛美し、歌いなさい。いつでも、すべてのことについて、私たちの主イエス・キリストの名によって、父である神に感謝しなさい。キリストを恐れて、互いに従い合いなさい。

知恵ある者、主の御心を知る者である

多様な役割を通して聖徒を完全にする

(エペソ 4:10-12) この降られた方ご自身は、すべてのものを満たすために、もろもろの天よりも高く上られた方でもあります。こうして、キリストご自身が、ある人たちを使徒、ある人たちを預言者、ある人たちを伝道者、ある人たちを牧師また教師としてお立てになり

ました。それは、聖徒たちを整えて奉仕の働きをさせ、キリストのからだを建て上げるためです。

教会のために万物のかしらとなられるキリスト、万物を満たす

(エペソ 1:22-23) また、神はすべてのものをキリストの足の下に従わせ、キリストを、すべてのものの上に立つかしらとして教会に与えられました。教会はキリストのからだであり、すべてのものをすべてのもので満たす方が満ちておられるところです。

2, 聖霊に満たされて御心を成す

聖霊に満たされよ！「フィンフレミ」と「フレロー」

(コロサイ 3:16-17) キリストのことばが、あなたがたのうちに豊かに住むようにしなさい。知恵を尽くして互いに教え、忠告し合い、詩と賛美と霊の歌により、感謝をもって心から神に向かって歌いなさい。ことばであれ行いであれ、何かをするときには、主イエスによって父なる神に感謝し、すべてを主イエスの名において行いなさい。

聖霊に満たされよ！キリストのみことばに満たされよ！

(ヘブル 1:1-2) 神は昔、預言者たちによって、多くの部分に分け、多くの方法で先祖たちに語られましたが、この終わりの時には、御子にあって私たちに語られました。神は御子を万物の相続者と定め、御子によって世界を造られました。

(コロサイ 1:5) それらは、あなたがたのために天に蓄えられている望みに基づくもので、あなたがたはこの望みのことを、あなたがたに届いた福音の真理のことばによって聞きました。

(ローマ 10:17) ですから、信仰は聞くことから始まります。聞くことは、キリストについてのことばを通して実現するのです。

(ローマ 10:6-8) しかし、信仰による義はこう言います。「あなたは心の中で、『だれが天に上るのか』と言ってはならない。」それはキリストを引き降ろすことです。また、『だれが深みに下るのか』と言ってはならない。」それはキリストを死者の中から引き上げることです。では、何と書いていますか。「みことばは、あなたの近くにあり、あなたの口にあり、あなたの心にある。」これは、私たちが宣べ伝えている信仰のことばのことです。

3, 毎日聖霊に満たされる、毎日福音を聞くこと

第34章 御国を御父に渡す

(I コリント 15:24) それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。

1, 万物がキリストに服従する

(コロサイ 1:13) 御父は、私たちが暗闇の力から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。

(黙 17:13-14) これらの王たちは一つ思いとなり、自分たちの力と権威をその獣に委ねます。彼らは子羊に戦いを挑みますが、子羊は彼らに打ち勝ちます。子羊は主の主、王の王だからです。子羊とともにいる者たちは、召されて選ばれた忠実な者たちです。

2, 「匿名のキリスト者」にも福音を

(ローマ 1:21-23) 彼らは神を知っていながら、神を神としてあがめず、感謝もせず、かえってその思いはむなしくなり、その鈍い心は暗くなったのです。彼らは、自分たちは知者であると主張しながら愚かになり、朽ちない神の栄光を、朽ちる人間や、鳥、獣、這うものに似たかたちと替えてしまいました。

3, 万物の主権が御父に返される

(I コリント 15:24-28) それから終わりが来ます。そのとき、キリストはあらゆる支配と、あらゆる権威、権力を滅ぼし、王国を父である神に渡されます。すべての敵をその足の下に置くまで、キリストは王として治めることになっているからです。最後の敵として滅ぼされるのは、死です。「神は万物をその方の足の下に従わせた」のです。しかし、万物が従わせられたと言うとき、そこには万物をキリストに従わせた方が含まれていないことは明らかです。そして、万物が御子に従うとき、御子自身も、万物をご自分に従わせてくださった方に従われます。これは、神が、すべてにおいてすべてとなられるためです。

全てのものの父に、とこしえに栄光を返す

(エペソ 4:6) すべてのものの上にあり、すべてのものを貫き、すべてのもののうちにおられる、すべてのものの父である神はただひとりです。

救いの秩序：創造前から完全まで

